

令和3年度 事業報告

1、事業の概要

令和4年3月内閣府発表の月例経済報告による北海道の景気は、「新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる。」となっており、観光についても、「弱含んでいる。」、個人消費については、「このところ持ち直しに足踏みがみられる。」という景気動向であり、江別市シルバー人材センターを取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況にあります。

また、雇用情勢については、求人が上昇しており、有効求人倍率は、1.02倍と前年を0.08ポイント上回り、完全失業率は、3.0%と前年と同様の状況で当センターの派遣事業にも少なからず影響を与えています。その結果、派遣就業契約額は、前年度の「6,213万円」を「82万円」上回る「6,295万円」となりました。

一方、請負就業契約額は、江別市の公園管理業務を継続して請負いましたが、前年度の「2億3,827万円」を「1,330万円」下回る「2億2,497万円」となりました。請負と派遣を合わせた総契約額では、前年度の「3億0,040万円」を4.15%下回る「2億8,792万円」となりました。

事業目標の達成状況については、会員数では前年度の「860人」から「890人」と「30人」の増加となり、目標値である「855人」を大幅に上回りました。しかしながら、請負契約金額は、目標値「2億7,307万円」を「4,810万円」下回る「2億2,497万円」となりました。派遣契約金額は、目標値「5,556万円」を「739万円」上回る「6,295万円」となりましたが、請負と派遣を合わせた金額は、目標値「3億2,863万円」を「4,071万円」下回る「2億8,792万円」となりました。また、派遣就業延人日については、新型コロナウイルス感染症の影響等もありましたが、目標値の「9,930人日」を「441人日」上回る「10,371人日」となりました。

以下、令和3年度の事業実施状況の詳細について報告します。

2、事業実施状況

(1) 会員数の増強

ア 会員の拡大

全国シルバー人材センター事業協会が示した会員100万人達成計画に基づく北海道シルバー人材センター連合会の江別市会員目標855人を大幅に上回る890人を達成しました。

年 度	目標数	会 員 数
平成28年度	890人	801人
平成29年度	850人	722人
平成30年度	760人	697人
令和元年度	779人	803人
令和2年度	809人	860人
令和3年度	855人	890人

- ① 全戸チラシ配布や街頭啓発を行い、センター事業の普及啓発と新入会員の入会促進に努めました。
- ② 北海道シルバー人材センター連合会と連携する体験型出前入会説明会を新型コロナウイルス感染症対策として実施できませんでしたが、84名の新規会員が入会しました。
- ③ 隣接の新篠津村との連携により会員増に努めました。
- ④ 社会奉仕会員制度により会員の退会抑制を図りましたが、退会会員が54名になりました。

イ 社会奉仕活動の充実

- ① JR駅周辺の環境美化やスポーツイベントの支援をする計画でしたが、新型コロナウイルス感染症により多くが中止となりました。
- ② 超高齢化社会に向けて地域の高齢者を支援するゴミ出しや灯油宅配の事業をワンコインでの有償ボランティアとして継続しました。

事 業 名	開 催 日	場 所	参加人数
野幌駅清掃ボランティア	4月24日	野幌運動公園	61人
運動公園マラソンボランティア	5月下旬	野幌運動公園	中止
野幌駅草取りボランティア	6月下旬	野幌駅前	中止
野幌駅草取りボランティア	8月下旬	野幌駅前	中止

(2) 就業機会の拡大

ア 請負事業の確保

(受託事業)

令和4年3月末現在

年 度	受注件数	請負延人数	契約額
平成28年度	6,496件	46,482人日	21,742万円
平成29年度	6,498件	47,243人日	22,148万円
平成30年度	6,315件	46,271人日	22,059万円
令和元年度	5,471件	43,308人日	20,701万円
令和2年度	5,260件	50,975人日	23,827万円
令和3年度	5,165件	48,661人日	22,497万円

- ① 市内企業や公共団体を訪問して就業先の掘り起こしに努めました。
- ② 市の公園管理業務を継続して請負ました。
- ③ 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。
- ④ センター内の就業情報板の活用のほか、全会員への郵送等により迅速な情報提供に努め、新たな就業先を紹介しました。
- ⑤ シルバー通信の充実を図り、様々な情報を提供しました。

イ 派遣事業の拡大

企業の人手不足が拡大するなか適正就業を推進することにより、派遣事業実績は、増加を続けてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延就業人数が目標値の9,930人日を441人日上回ったものの契約金額では前年度の6,213万円より僅か82万円増加の6,295万円に留まりました。

(派遣事業実績)

令和4年3月末現在

年 度	受注件数	派遣延人数	契約額
平成28年度	56件	13,212人日	7,161万円
平成29年度	51件	12,080人日	6,221万円
平成30年度	50件	12,116人日	6,474万円
令和元年度	71件	12,844人日	7,186万円
令和2年度	43件	10,446人日	6,213万円
令和3年度	56件	10,371人日	6,295万円

- ① 就業開拓員による市内民間企業や行政等への訪問によって、新たな就業先の確保に努めました。
- ② 全国シルバー人材センター事業協会及び北海道シルバー人材センター連合会と連携し、企業への派遣事業を進めました。
- ③ 地域の労働力不足を補うために、シルバー派遣事業をより拡充し、多様な就業機会確保に努めました。
- ④ 同一労働同一賃金制度への対応をしました。

(事業契約実績)

令和4年3月末現在

年度別	3年度	2年度	元年度	30年度	29年度
受託事業	22,497万円	23,827万円	20,701万円	22,060万円	22,148万円
派遣事業	6,295万円	6,213万円	7,186万円	6,474万円	6,221万円
合計	28,792万円	30,040万円	27,887万円	28,534万円	28,369万円

ウ 技術・接遇等の向上

新型コロナウイルス感染症対策により各種研修会・講習会は、室蘭市シルバー人材センター視察研修及び公共施設管理接遇研修を除き、開催できませんでした。

講習会名	開催日	会場	参加人数
剪定講習会	5月中旬	センター研修室	中止
美唄市SC視察研修会	9月下旬	美唄市SC	中止
室蘭市SC視察研修会	12月9日	室蘭市SC	28人
冬囲い講習会	10月上旬	センター研修室	中止
刃物研ぎ講習会	12月上旬	センター研修室	中止
安全衛生研修会	1月下旬	はやし	中止
福祉家事援助サービス講習会	2月中旬	センター研修室	中止
公共施設管理接遇研修	3月3日	センター研修室	12人

(3) 安全就業及び適正就業の推進

ア 安全就業の徹底

傷害事故4件、労災事故2件と損害賠償事故1件が発生しました。安全衛生委員会では、安全就業の徹底に向け、以下の5項目の対策を行い、重篤事故は発生しませんでした。また、当センターは、6月に全国シルバー人材センター事業協会から安全就業に対する取組みや実績が評価され、安全就業優秀賞を受賞しました。

- ① 安全パトロールを行い、安全意識の啓蒙と事故防止に努めました。
- ② 安全標語の募集など、安全と事故防止のための啓発に努めました。
令和3年度安全標語最優秀賞 「確認は 我が身を守る 第一歩」
- ③ 安全保護具の着用と機械器具の点検整備を強化し、事故防止に努めました。
- ④ 請負会員には健康診断の受診を奨励し、派遣会員には健康診断を実施しました。
- ⑤ 「団体傷害保険・総合賠償責任保険」に継続加入しました。

令和3年度事故概況

(傷害事故 4件)

(前年度 2件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
女	73	草取り	スズメバチに右親指と人差し指の間を刺された
男	69	清掃業務	アパート前の除雪作業時に凍結路面で転倒し、後頭部・背中の打撲
女	71	工場内清掃	工場内にある鉄のドアに右手中指の先を挟み骨折
男	67	公園管理	東屋の雪下ろし作業中に落下し、右脇腹にヒビ

(労災事故 2件)

(前年度 2件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	72	荷受け整理	スーパーバックヤードで高さ2mから後方に転倒、頭蓋骨にヒビ
女	78	工場内清掃	事務所の廊下で転倒した際、左膝をついてヒビ

(賠償事故 1件)

(前年度 5件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	70	機械草刈り	作業中、飛び石により隣接アパートに駐車場の車両に傷

イ 適正就業の推進

- ① 法令を遵守し、高齢者に適した臨時的、短期的または軽易な就業を行うことはシルバー人材センターの基本姿勢であり、社会的な責任をもってその役割を果たしました。
- ② 企業等の発注者や会員に「適正就業ガイドライン」を活用してセンターの就業形態について周知し、理解を求めました。
- ③ 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。

(4) 運営基盤の強化

ア 組織体制の強化

事務局体制の強化のため臨時職員を採用したほか、会員による事務補助員も就業させ、組織体制の強化に努めました。

年度別	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
正職員数	6人	6人	5人	4人	4人
臨時職員数	1人	2人	9人	5人	5人
業務補助員数	1人	1人	1人	1人	1人

- ① 公益社団法人として、健全な運営や透明性の確保、地域社会への貢献、法令順守など認定法に基づく事業運営を行いました。
- ② 理事会の活性化を図るための役員研修会は、コロナ禍により中止となりました。
- ③ 会員への情報提供業務、研修業務、労務管理など事務量の増大に対応するため事務局の正職員を補充しました。
- ④ 新型コロナウイルス感染症対策により地区懇談会は、中止しました。
- ⑤ パソコン等情報機器の整備により効率化に努めました。

イ 財政の健全化

国の補助金の削減により厳しい財政運営を続けてきましたが、平成27年度から始まった高齢者サポート事業補助金により安定的な運営資金が確保されています。

(補助金実績)

年度別	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
連合交付金	23,339千円	23,339千円	23,339千円	23,739千円	23,541千円
市補助金	23,339千円	23,339千円	23,339千円	23,739千円	23,541千円
村補助金	500千円	500千円	—千円	—千円	—千円
合計	47,178千円	47,178千円	46,678千円	47,478千円	47,082千円

- ① 就業の拡大により事務費を確保しました。
- ② 派遣事業の拡大により手数料を確保しました。
- ③ センター事業の趣旨に賛同する賛助会員の確保に努めました。
- ④ 最低賃金の改正に伴い配分金の改正を行い、令和4年4月から施行します。
- ⑤ 独自事業の「堆肥・腐葉土」作りは、採算性や作業工程の効率化に努めました。

ウ 広報活動の強化

- ① 会員の増強や受注の拡大のために、チラシ配布等を継続するほか、センターホームページの充実を図りました。
- ② 会員一人ひとりが会員増強と事業拡大のために、口コミによる広報活動への取り組みを進めました。

(5) 関係機関団体等との協力連携

江別市、厚生労働省、北海道労働局、北海道、全国シルバー人材センター事業協会、北海道シルバー人材センター連合会、道内外のシルバー人材センターと連携し、事業の円滑な運営に努めた外、隣接自治体である新篠津村と連携し、事業を進めました。